

交流・文化施設実施設計の概要

～市民が集い、文化芸術の薫るまちづくり拠点の整備に向けて～

低層配置による、人にやさしく、誰もが利用しやすく、
わかりやすい交流・文化施設

バリアフリーに徹した低層配置

周辺環境に開かれた施設配置

明快で、わかり易い構成

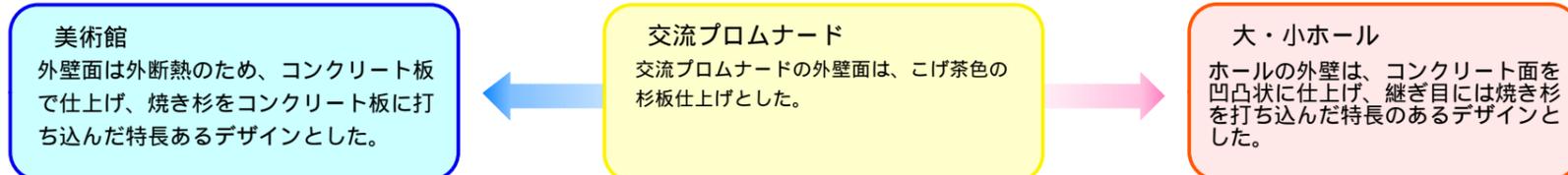
開放的な施設機能配置



建築概要

所在地	: 長野県上田市天神三丁目3037, 3038, 3039, 3040
敷地面積	: 45,469㎡
駐車台数	: 395台 (内身障者用8台、大型車5台)
主要用途	: 劇場・美術館
延べ床面積	: 17,620㎡
建築面積	: 12,309㎡
構造	: 鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造 鉄筋コンクリート造
階数	: 地上5階、地下1階
最高高さ	: 35m
施設構成	
・ホール	大ホール：固定席1530席（最大1650人収容） 小ホール：固定席320席 楽屋、他付帯施設
・美術館	常設展示室、企画展示室、収蔵庫、 市民アトリエ・ギャラリー、 子どもアトリエ、アトリエ、他付帯施設
・交流施設	大スタジオ、多目的ルーム、スタジオ、 会議室、和室、ボランティアルーム、 カフェ、エントランスホール、他
・管理部門	総合案内、事務室、施設管理、託児室、他
・市民緑地 広場	交流芝生広場、緑地公園、親水施設 桜並木遊歩道、屋外トイレ、駐輪場

外観デザインの特徴：コンクリートを基調にエコ素材である木材をデザイン上のアクセントとした。



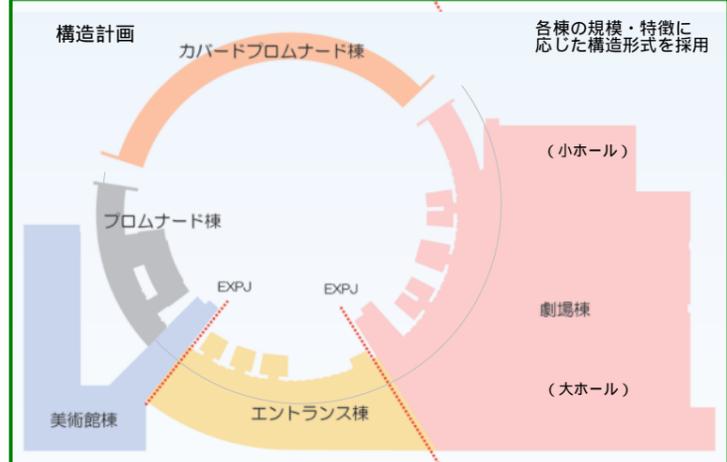
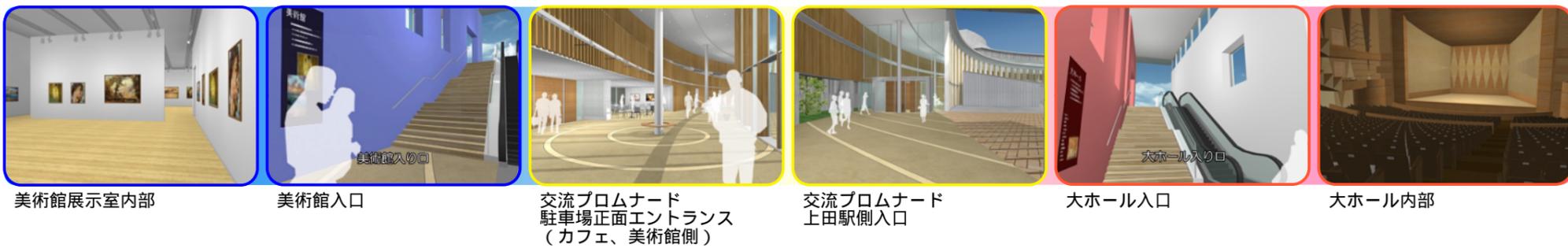
内観デザインの特徴

交流プロムナード

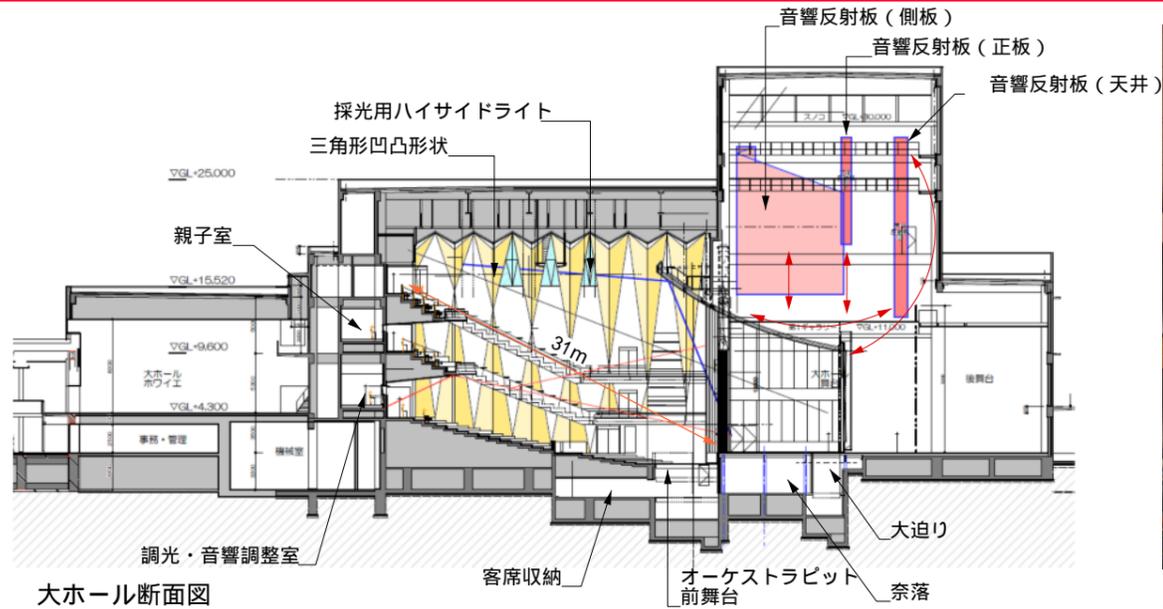
- ・仕上はコンクリートを基調に地元産木材を縦ルーバー（格子）として使用する。
- ・ホールと美術館の入口アプローチとなる壁は、赤と青の大胆な色使いによる施設入口サイン（目印）として、また、デザイン上のアクセントとして特徴づけた。
- ・交流芝生広場側は広い開口部を持つ明るく開放的な空間とした。

大・小ホール

- ・仕上げ材料に地元産木材を使用して音響に優れた木質ホールを目指すと共に、温かみのあるデザインとした。



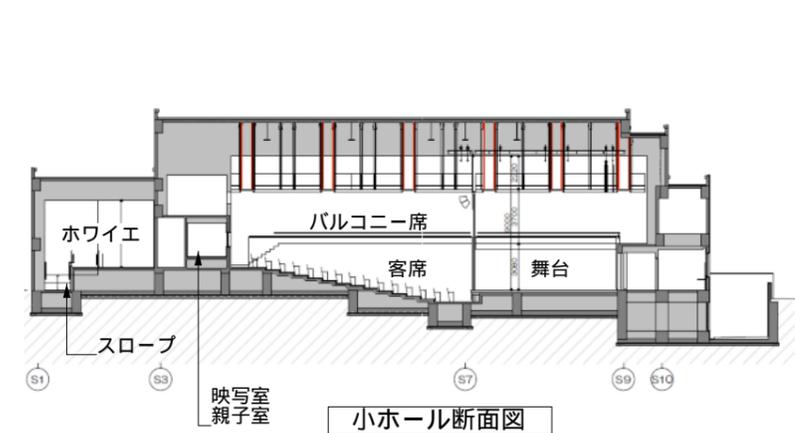
大ホール



大ホール客席側

大ホール舞台側（内観パース）

小ホール



小ホール内観パース

小ホールデザイン・形状

- ・小ホールは、ワンボックス型のオープンステージ形状で、客席とステージの周囲にギャラリー席を配置した。
- ・舞台と客席を幕で仕切ること出来るため音楽以外にも演劇など多様な利用や演出にも対応可能な構造とした。
- ・壁の仕上げには木材を使用している。

小ホール客席

- ・席数：固定席 320席
（平土間288席、バルコニー席32席）
（舞台上バルコニー席に可動席52席の設置が可能）
- ・親子鑑賞室 1室 / 車椅子席 4席
- ・客用トイレは、女性用を10、男性用を8個、多目的トイレを1箇所配置。

小ホール舞台

- ・舞台は12m x 9.9mの大きさで左右に袖舞台を持つ。
- ・音楽利用時は袖舞台の仕切り壁が音響反射板としての役割を果たす。
- ・小ホール専用の中楽屋（10名程度）2室、小楽屋（4名程度）3室を備える。

大ホールのデザイン・形状

- ・大ホールは、音響反射板を備えたプロセニウム形式による多目的ホール。
- ・壁と天井は、地元産木材を三角の凹凸形状に仕上げた音響に優れた木質ホールで温かみのあるデザインとした。

大ホール客席

- 1階席に2層バルコニー席を加えた構成としたが、3階席の最後列から舞台までの距離は、現市民会館と同じ31mに抑えられており、客席と演者の距離が近く一体感のあるホールとした。
- ・席数：固定席 : 1530席（最大1650人収容）
（可動席+88席）立見+120人
- 1階席 : 1002席
- 第1バルコニー席 : 272席（+44席）+60人
- 第2バルコニー席 : 256席（+44席）+60人
- 座席：幅52cm、前後95cm（現市民会館：幅48cm、前後90cm）
- ・親子鑑賞室2室 / 車椅子席8席（最大24席設置可能）

大ホール舞台

- ・主舞台は18m x 18mで、袖舞台と後舞台を持つ。
- ・音響反射板は、効率よく客席に音を伝えられる構造。被災地ホールの教訓から、吊り下げ式の安全性が証明された。
- ・客席前部にオーケストラピット迫りを持ち、演出によっては前舞台としての利用も可能である。

大ホールホワイエ

- ・ホワイエは2層吹き抜けの空間とし、千曲川を望む広いガラス開口を有し、ビュッフェエリアと共にゆったりと快適に過ごせる空間とした。
- ・客席トイレは女性用を67、男性用を30個、多目的トイレを4箇所配置した。

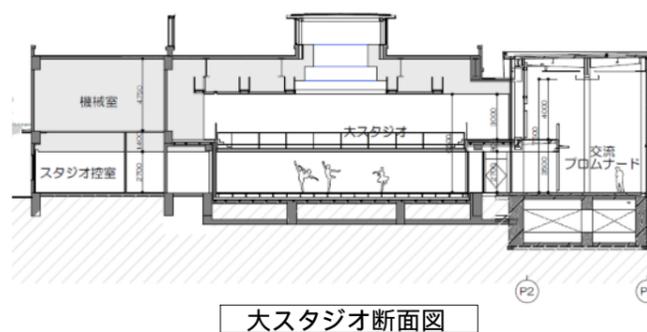
楽屋等出演者用施設（大・小ホール共用）

- ・楽屋は大・小ホールと大スタジオで相互利用が可能。
- ・大楽屋（20名程度）3室、中楽屋（10名程度）2室、小楽屋（4名程度）3室とした。
- ・付随施設としてアーティストラウンジを設け、快適な楽屋環境として専用のトイレ、シャワー、洗濯室、主催者控え室など必要な機能を備えている。

大道具搬入・倉庫

- ・搬入口は11t車2台が屋内に収容でき、冬期や深夜の搬入作業も容易に行える。舞台、倉庫への搬出入もスムーズに行える動線計画とした。

大スタジオ

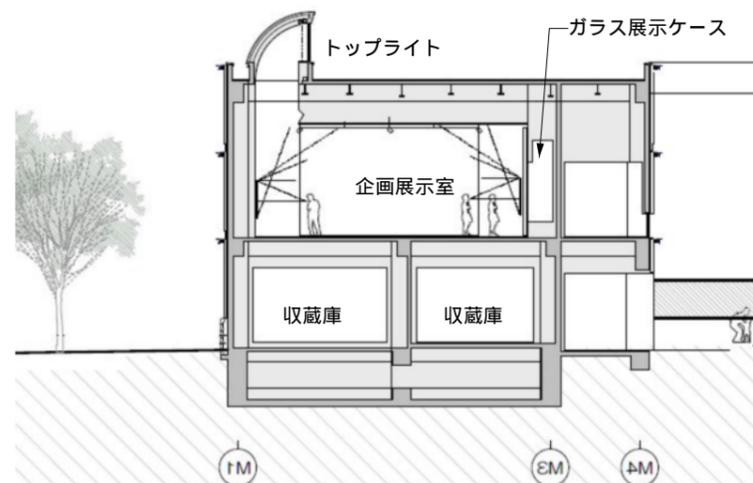


大スタジオ内観パース

大スタジオ

- ・大ホール主舞台と同じ広さを持ち、リハーサルや様々な舞台芸術の練習や発表にも利用できる。
- ・天井にはトプライトを設け自然採光による明るい室内空間とした。
- ・その他、最小限の舞台照明やパレエパー、鏡など多様な利用にも配慮した設備を設けている。
- ・大規模イベント時の臨時控え室や大小ホールのバックヤードとしての利用も可能。

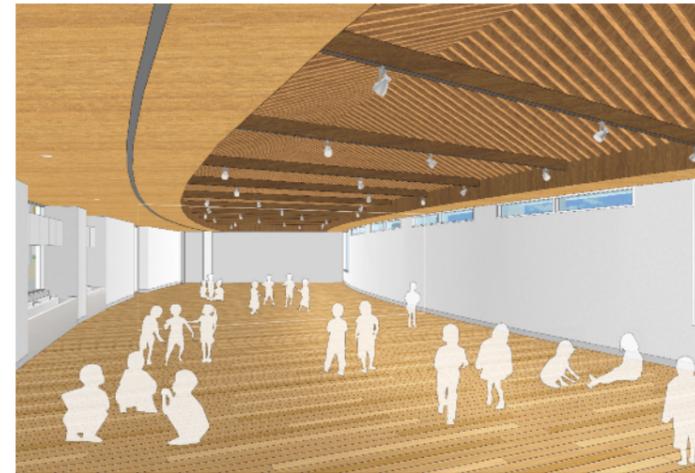
美術館



美術館断面図



企画展示室



子どもアトリエ

美術館 常設展示室 430㎡
企画展示室 375㎡

- 最新の美術品保存環境制御技術を取り入れ、(国宝や重要文化財も借用展示が許される)文化庁「文化財公開承認施設」グレードを確保。貴重な芸術作品を後世に継承するための収蔵庫や展示室を実現する。
- 基本構成は2階に展示室、1階に搬入、収蔵、管理部門を設け、公開エリアと管理エリアを明確に分離した。
- 展示室は、可動式の展示壁により使いやすい形状とし、様々な展示に対応が可能。またガラス展示ケースを設け、伝統的美術作品の展示にも配慮した。
- 常設展示室では、内部を三分割(面積変更可能)のうえ、入口は一箇所に集約した。
- 企画展示室の西壁面は継ぎ目のない大面積の展示壁とし、上部にトップライトを設けることで現代アートなどの多様な展示形態への対応も可能とした。
- シンプルな壁面は、西洋名画、現代日本画、抽象・具象を問わず魅力を最大限引き出すことができる仕様とした。

交流施設



エントランスホール

交流プロムナード

- 回廊状の交流プロムナードは全ての施設に繋がる本施設の大きな特徴であり、最大幅8m、天井高さ7.5mのゆとりある空間となっている。
- 壁面の木製ルーバー(格子)は、展示空間としての活用ができる。

エントランスホール、カフェ

- 中央のエントランスホールに面して総合案内とカフェを設けた。カフェには、屋外テラスも付属しており、交流芝生広場と共に開放的なくつろぎの空間となっている。

リバーフロントテラス

- エントランスの上部、大ホールホワイエに面してリバーフロントテラスを設けた。千曲川の眺望を楽しめる場として、また非常時には大ホールからの安全な避難経路として機能する。

その他施設

- 大ホールへの階段室1階に託児室とロッカーを設けた。



多目的ルーム

多目的ルーム 209㎡

- 市民参加型の各種イベント(展示会、講演会等)に対応するため、可動間仕切壁を装備した。
- 隣接する市民アトリエ・ギャラリーと同一形状として相互の連絡通路を設け一体利用が可能な部屋とした。

中スタジオ、小スタジオ

- 中スタジオはコーラスなどグループ活動に考慮し67㎡を確保した。小スタジオは個人や小人数の練習室として33㎡×4室を確保した。
- 各スタジオは大音量の練習も可能な防音構造。

会議室、和室

- 会議室は30名程度の利用を考慮して55㎡1室を設けた。
- 和室は茶道や句会、日本舞踊を考慮した18畳の広さとした。

市民緑地・広場

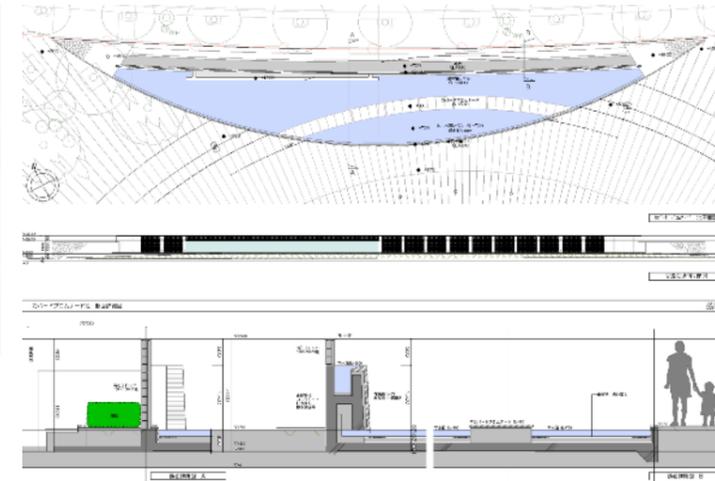


市民緑地・広場

- 市民緑地・広場は、平成25年度の発注に向けて設計を進めて行くが、芝生広場のほか、子育て世代からの要望が多い親水施設はカバードプロムナード北側に、実施設計の中で配置計画した。
- 千曲川堤防沿いには、桜並木の遊歩道を設ける。



親水施設(浅い池と滝をイメージ)



ミュージアムショップ、ライブラリー

- ミュージアムショップとライブラリーは1階受付付近に配置。学芸員、ボランティア室ともつながっている。

収蔵庫、搬入口、管理室

- 収蔵庫は美術品収蔵の安全性・信頼性の確保を最優先とした。さらに搬入から収蔵までの作業性も考慮。また、収蔵庫入口には想定外の水害対策として遮水板を設けた。

